

令和 7 年 3 月 31 日

菊川市長 長谷川 寛 彦 様

菊川市総合計画審議会
会長 小泉 祐一郎

第 3 次菊川市総合計画「基本構想」について（答申）

令和 5 年 7 月 25 日付け菊企企第 141 号によって諮問のあった、第 3 次菊川市総合計画「基本構想」について、本審議会での審議結果を別添のとおりまとめましたので、答申します。

なお、今後の計画の推進に当たり、下記の事項に配慮されるよう要望します。

記

- 1 市民や市に関わる人たち一人ひとり、誰もが夢叶い、幸せを創り生み出すまちを実現し、その幸せがこの先も続き、広がり、実感できる都市へ発展していくため、菊川市の魅力を高めていき、将来像で掲げた「誰もが夢叶う 幸せ創生都市 “^{きくがわ}菊川”」の実現に向けて、市制運営に取り組まれること。
- 2 少子高齢化や都市集中などに伴う人口減少、頻発する自然災害などの課題に対し、“みどり”あふれる自然など菊川市が持つ地域資源や魅力・特色を活かし、市民、事業者、行政が協力して、持続可能な都市づくりを進めていくこと。

答申書

令和 7 年 3 月 31 日

菊川市総合計画審議会

第3次菊川市総合計画 「基本構想」

計画期間：令和8年度から令和15年度まで

1 まちの将来像

(1) 基本理念

平成 18 年に制定された「菊川市民憲章」で掲げられている条文や「市民意識調査」で回答あった魅力や目指すべきまちのイメージにおいて、まちづくりへの想いは、合併時から現在も引き継がれていることから、今後も平成 17 年合併時の理念を受け継ぐため、第 3 次菊川市総合計画でもまちづくりの基本理念を継承していきます。

とも い 共に生きる

－共生と協働－

市民と豊かな自然環境が共生し、市民と行政が互いの役割分担を認識し、顔の見える関係を保ちながら協働するまちづくりを目指します。

そのため、地域が自らの意思と責任で行動し、互いに協調・協力して地域のために活動すること

みづか ひら 自らを拓く

－自立と交流－

安心して暮らせることはもとより、特色がある魅力的なまちづくりを目指します。

そのため、市民が生涯学習や幅広い分野での交流を実践して、自らのより豊かな知恵と創造を拓くことを重視します。

みらい あゆ 未来へ歩む

－継承と発展－

ふるさとの「よさ」を再発見し、誇れる資源を活かし、長い歴史のなかで受け継がれた伝統文化や形成された技術をたたえ、継承し、新たな発展を加えて、未来に向かって確実に進歩することを重視します。

誰もが夢叶う

幸せ創生都市 “^{きくがわ}菊川”

少子高齢化や都市集中などにともなう人口減少に加え、紛争や、原材料価格・燃料価格の高騰などに起因する不安定な地域経済、頻発する自然災害、世界的な環境保全意識の高まりなど、目まぐるしく変化する時代や社会環境への対応は不可欠です。加えて、ジェンダーの平等をはじめ、外国人住民比率の高い本市においては多文化共生の推進など多様性の尊重も求められており、市民一人ひとりがそれぞれの考え方や置かれた環境を尊重し、支え合っていく必要があります。

こうした多くの課題などに対して柔軟に適応し、持続的なまちづくりに取り組むとともに、菊川市の大きな魅力である“みどり”あふれる自然など次世代に引き継ぐべき素晴らしい環境と菊川市のもつポテンシャル（可能性）を引き出し、魅力ある暮らしを市民と行政が協力して創ることで、市民や市に関わる人たち一人ひとり、誰もが夢叶い、幸せを創り生み出すまちを実現していきます。そして、その幸せがこの先も続き、広がり、実感できる都市へ発展していくことを目指していきます。

誰もが夢叶う

近年、性別・年齢・国籍などの「属性」や価値観やライフスタイルなどの「思考」の多様性が重要視されています。特に、菊川市では外国人が全市民の約8%を占めており、これまでも多文化共生を推進してきました。また、自分らしく輝く男女共同参画社会の実現に取り組むとともに、令和5年度に国内で初めて宣言をした「菊川市こども・わかもの参画宣言」に基づき、全てのこども・若者がまちづくりに参加・参画できるまちを目指しています。こうした社会背景と本市を取り巻く状況を踏まえ、菊川市民や菊川市に関わる人たち誰もが夢叶うことができるまちをイメージしています。

幸せ創生都市

魅力ある暮らしや住みやすさを追求することで、将来にわたって活力ある菊川市を維持するとともに、幸せが創り生み出されるまちをイメージしています。また、人口課題に取り組む計画として、可能な限り人口減少を抑止し、持続可能な社会の形成を目指す一連の取組を表す「地方創生」と「幸せ」を掛け合わせた造語で、幸せを「創」り「生」み出し、人口課題に重点的に取り組むというメッセージを込めました。

^{きくがわ} “菊川”

これからの8年間で目指す将来像に「菊川市」は発展していくという強いメッセージを、ルビとダブルクォート（“二重引用符”）を使って表現しました。

(3) 魅力を高める基本目標

本計画の基本目標は、本市の魅力を高めるものであることから、名称は「魅力を高める基本目標」とし、将来像の実現において、市民意識調査の「菊川市の魅力」で市民から出たキーワードをもとに「次世代」「安心」「幸福」「快適」「躍動」と設定しました。

目標

1

次世代 Next Generation

子育て 教育

将来を担う子どもたちが、最適な環境で質の高い教育・保育が受けられるための環境づくりを進めるほか、妊娠・出産・子育ての多様なニーズに応じた支援を行うなど、次世代につながるまちとして魅力を高めます。

目標

2

安心 Peace

防災 自助 共助 公助

大規模災害や火災・救急事案への適切な対応のため、市民の防災意識や防火意識の高揚、関連する知識の普及により、地域の防災力などを向上させ、安全安心なまちとして魅力を高めます。

目標

3

幸福 Happiness

健康 福祉 医療 生涯学習 文化芸術 スポーツ

福祉や医療の充実、また歴史や芸術などの文化振興やスポーツの普及などにより、いつまでも健康的かつ文化的な生活を送ることができる幸福感のあるまちとして魅力を高めます。

目標

4

快適 Comfort

環境 社会資本整備 行財政

自然環境、生活環境、住環境をより良くするほか、誰もが活躍できるような仕組みづくりをとおして、年代、性別、国籍を問わず暮らしやすいとすることができる快適なまちとして魅力を高めます。

目標

5

躍動 Activation

経済 雇用 農業 観光 コミュニティ

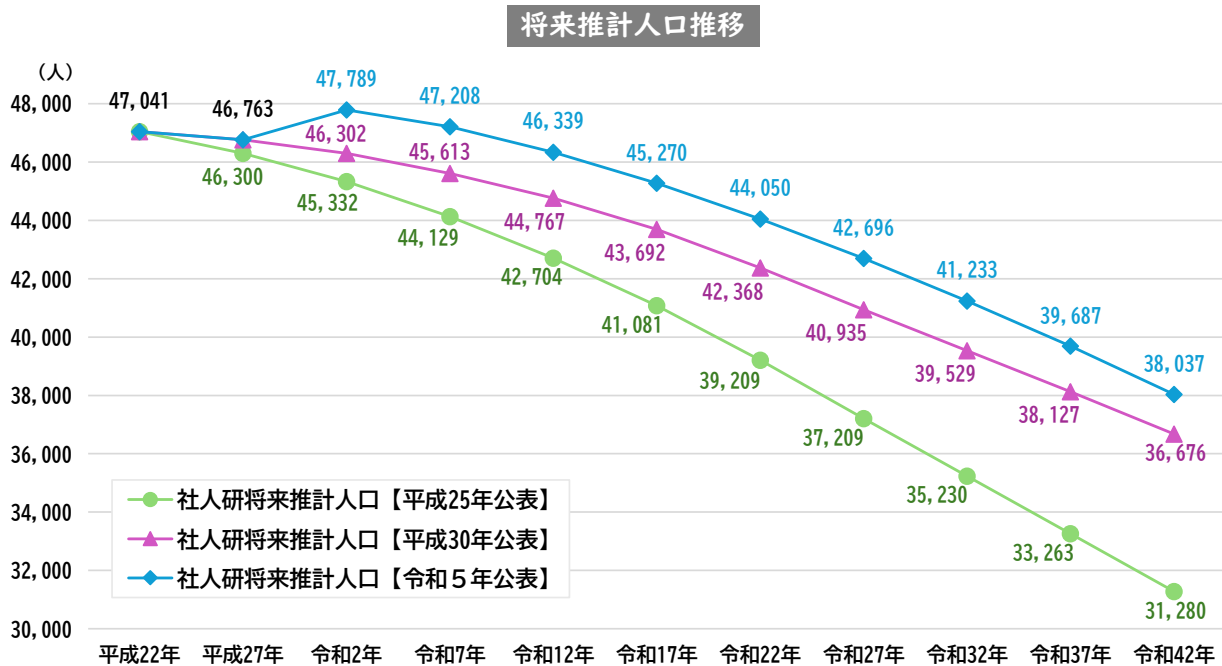
農商工の振興、観光やイベント情報の発信、市民と行政の協働を通じて、市全体の活性化を図り、躍動感あふれるまちとして魅力を高めます。

2 目標人口

(1) 本市の将来推計人口推移

本市の令和 42 年の国立社会保障人口問題研究所（以下、「社人研」）における将来推計人口は令和 5 年公表によると 38,037 人となっています。

また、過年度公表の令和 42 年の将来人口をみると、平成 25 年公表は 31,280 人となっており、令和 5 年公表で減少幅が約 5,000 人改善されており、平成 30 年公表では 36,676 人と減少幅が約 2,000 人改善されています。

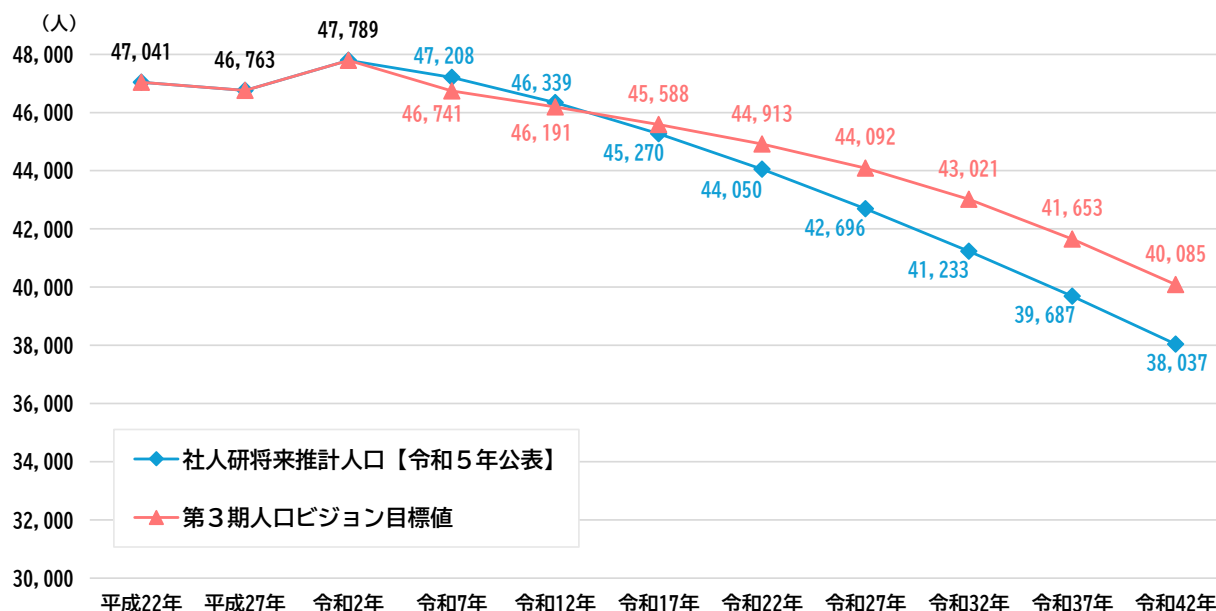


資料：社人研（平成 25 年、平成 30 年、令和 5 年公表）

（２）第３期人口ビジョンにおける目標人口

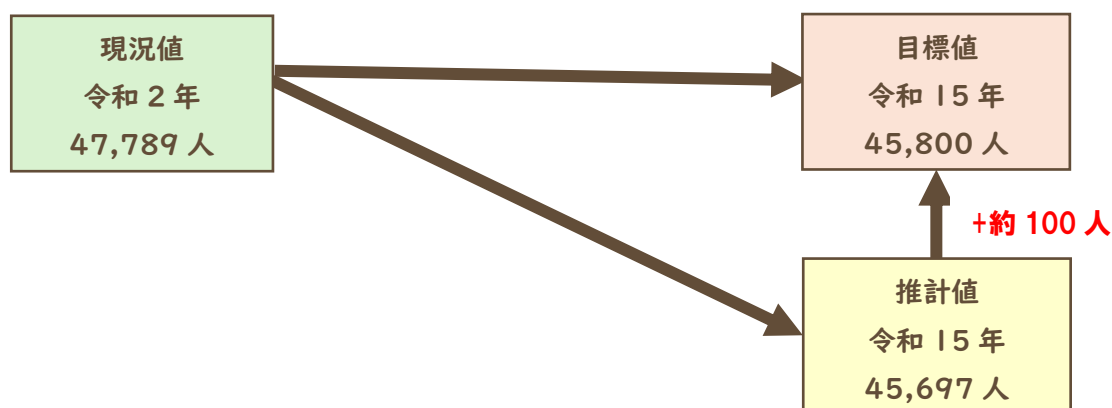
令和５年公表の社人研の将来推計人口をもとに、自然動態は出生率の低減を緩和し、出生数の減少を抑え、社会動態は移動率を改善し、人口を増やすことで第３期人口ビジョンの目標年次である令和４２年における目標人口を４０,０００人とします。

目標人口推移



（３）本計画における目標人口

令和５年公表の社人研の将来推計人口をもとに、子育て世帯の経済的支援、子どもを希望する夫婦への妊活支援、Ｕターンへの支援や首都圏・中京圏からの移住の促進などの人口課題への対策を講じることで本計画の目標年次である令和１５年における目標人口を４５,８００人とします。



※本計画の目標年度である令和１５年の推計値・目標値については、第３期人口ビジョンの過程の数値（令和１２年と令和１７年）から算出したものです。推計値・目標値ともに５年ごと（国勢調査年）の数値となるため、中間年である本計画の目標年度（令和１５年）の目標値は、令和１２年と令和１７年の国勢調査結果を按分して算出していきます。

3 将来の都市構造

(1) 「将来都市構造」の基本的な考え方

本計画における目指す都市のかたちとして、本市の持つ特性や地域資源を活かし、少子高齢化などにもなう人口減少などの人口課題に対応した都市づくりを進めていく必要があります。また、脱炭素社会の実現やデジタル・トランスフォーメーション(DX)の推進、SDGsの達成を新たな都市づくりの視点として捉え、次世代に引き継ぐ持続可能な都市づくりや頻発する自然災害に対し、市民が安全で安心して暮らせる都市づくりも求められています。

このような背景を踏まえ、適正かつ計画的な土地利用を進めるため、将来の都市構造のあり方を次のように定めます。

① 「コンパクト+ネットワーク」による持続可能な都市づくり

JR 東海道本線菊川駅や東名高速道路菊川 IC、東海道新幹線掛川駅、御前崎港、富士山静岡空港などの恵まれた交通ネットワークを活かすとともに、市街地を中心とした拠点と既存の地域活動拠点をつなぐ道路交通網と世代やライフスタイルに応じた医療機関などへの移動手段を確保するなど、「コンパクト+ネットワーク」による持続可能な都市づくりを進めます。

② 人や企業が集まり活力を生み出す都市づくり

新たな産業立地拠点の整備や本市の恵まれた交通ネットワークを活かした企業誘致や既存企業の事業拡大などの支援に加え、産業支援センターEnGAWAを拠点とした先端産業などの育成や新しい産業活動の創出を通じ、農・商・工の均衡ある発展と新たな就労の場・雇用を創出する都市づくりを進めます。また、JR 菊川駅周辺の整備と駅北側に住宅を中心としたまちづくりを行うことで、利便性の高い住環境を創出し、定住人口の確保につなげる都市づくりを進めます。

③ みどりあふれる豊かな自然環境と歴史・文化が調和した都市づくり

菊川を代表とする河川や、牧之原台地を始めとした茶園や日本の原風景である棚田などの農地やみどりあふれる豊かな自然環境と歴史ある伝統・文化を保全しつつ、多様なライフスタイルを実現する温暖な気候を有効活用し、自然環境と歴史・文化が調和した、来訪者が魅力を感じる個性的な都市づくりを進めます。

④ 市民と事業者とともに育む都市づくり

各地区センターを核とした地域コミュニティとともに、地域の活力を創出・維持するため、市民・事業者・行政などの協働・共創により成長しつづけてきた都市づくりを継続し、これからも市民と事業者とともに育む都市づくりを進めます。

⑤ 多彩な人が交わる賑わいあふれる都市づくり

コミュニティ活動拠点「プラザきくる」を核として、若者や外国人、地域事業者などの地域内交流を促進し、多様性のあるコミュニティを創出するとともに、豊かな生態系や美しい景観を形成する茶園や棚田などの伝統的な地域資源などを活用しながら、市内外の多彩な人が交わる地域活動を推進し、賑わいを創出できる都市づくりを進めます。

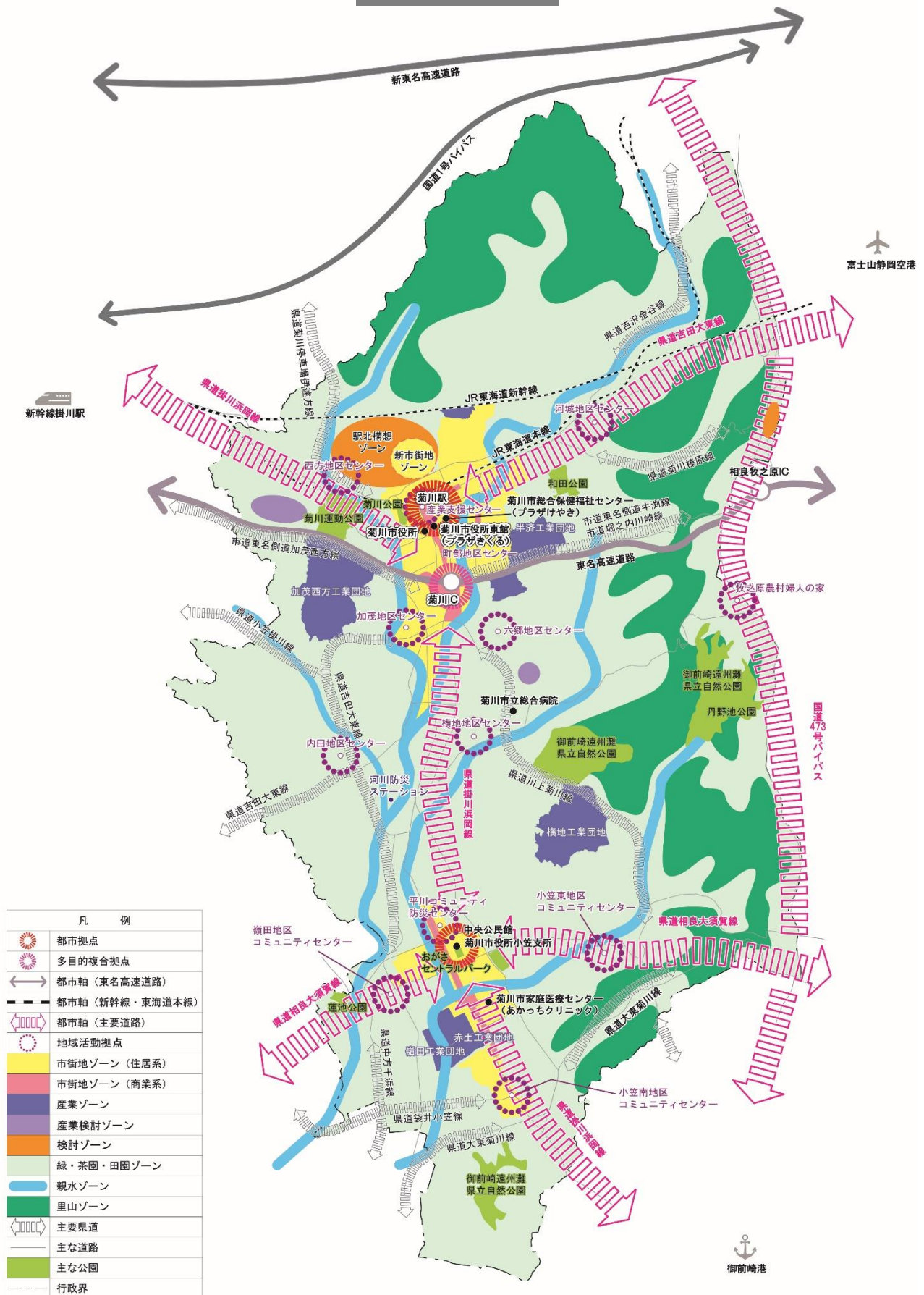
⑥ 災害に強く安全安心に暮らせる都市づくり

予想される南海トラフ巨大地震や気候変動の影響などにより近年多発化・激甚化する風水害などに対応するため、豪雨による浸水被害が頻発する小笠地域の流域治水の推進や広域的・総合的な防災・減災対策により、災害に強く安全安心に暮らせる都市づくりを進めます。また、市民の自主防災意識と連帯意識を高め、互いに支えあい安心して住み続けられるよう地域防災力の向上、地域福祉体制の充実などに取り組みます。

(2) 将来都市構造

区分	内容
都市拠点	JR 菊川駅周辺地区、中央公民館周辺地区への都市機能集積を図ります。
多目的複合拠点	東名高速道路菊川 IC 周辺地区へ商業機能をはじめとした多様な都市機能の集積を図ります。
都市軸	JR 東海道本線、東名高速道路、県道掛川浜岡線バイパスなどを位置づけ、市内外を結ぶ広域交通網を形成します。
地域活動拠点	地域のコミュニティ施設を核とした生活に身近な行政サービスを充実します。また、「地域活動拠点」相互や「市街地ゾーン」との連携を図ります。
市街地ゾーン	商業系機能などの強化を進めながら土地利用を高度化し、まちの象徴的な空間となるようにします。
産業ゾーン	東名高速道路や隣接する富士山静岡空港など広域交通拠点との隣接性を活かし、既存産業の振興や新たな業種・業態の導入を促します。
緑・茶園・田園ゾーン	茶の生産環境の維持・保全を図ります。また、自然生態系、地域振興、周辺の土地利用に配慮し、観光・レクリエーション、学習などの場として活用します。その他、優良な農地の保全に努め、生産性の向上におけた基盤整備を進めます。
親水ゾーン	菊川をはじめとする河川と沿川部について、自然景観の保全とともに、河川の浄化に努め親水性を高めます。
里山ゾーン	棚田・雑木林などの良好な里山の環境や景観、歴史や伝統を踏まえた文化資源の保全に努めます。

将来都市構造概念図



4 政策の大綱

目指す都市の将来像を具現化するために、5つの魅力を高める基本目標（「魅力目標」）、27の政策を体系化して表しています。

魅力目標1 次世代 Next Generation		子育て 教育
政策	施策	
1 みんなが助け合い、 支え合って子どもを 産み育てるまちづくり	1 教育・保育サービスの充実への取組 2 質の高い幼児教育・保育の提供 3 安心安全な子育て環境の整備 4 すべての子どもの育ちへの支援	
2 親と子が健やかに 成長できるまちづくり	1 親子の健やかな成長への切れ目ない支援 2 安心安全に妊娠・出産できる環境の提供 3 子どもの成長に合わせた発達支援への取組	
3 安全・安心な教育環境で、 魅力ある学びを実現する まちづくり	1 学校施設の適正な維持管理及び改修更新による安全安心な 教育環境の提供 2 安全・安心な教育環境整備と学校振興による学びの質の向上の推進 3 デジタル学習基盤を活用した主体的で深い学びの実現への取組 4 安全でおいしい給食の安定的な提供	
4 子どもの「生きる力」を育む まちづくり	1 多様な子どもたちの学びを支えるインクルーシブな教育振興への取組 2 コミュニティ・スクールを核とした地域連携型小中一貫教育の推進	
5 市民一人ひとりが心豊かで 充実した人生を送ることが できるまちづくり	1 地域で子どもを守り育てる活動の推進 2 家庭の教育力向上	
魅力目標2 安心 Peace		防災 自助 共助 公助
政策	施策	
1 災害への対応力を高める まちづくり	1 災害に強いまちの構築 2 地域防災力の充実・強化 3 災害に備えた地域と人のつながりを守る活動の推進 4 避難情報の適切な伝達と避難体制の強化	
2 消防力を高めるまちづくり	1 消防活動のための基盤整備の推進 2 消防職員の活動能力向上への取組 3 消防団の入団促進・活動支援への取組 4 市民の防火意識の高揚と応急手当の普及啓発への取組	
魅力目標3 幸福 Happiness		健康 福祉 医療 生涯学習 文化芸術 スポーツ
政策	施策	
1 適度な運動や正しい 食生活でみんなが健康な まちづくり	1 健康に対する意識の向上と啓発 2 生活習慣病やがんの予防の推進 3 こころの健康づくりの推進 4 高齢者などの感染症予防の推進	
2 高齢者が元気にいきいきと 暮らせるまちづくり	1 高齢者の介護予防と生きがいづくりの推進 2 地域包括ケアシステムの推進	
3 地域の幸せを互いに創り、 支え合うまちづくり	1 地域における市民の福祉活動への支援 2 地域福祉の担い手の育成・支援 3 地域のなかで自立した生活を目指す人への支援	
4 障がいのある人もない人も 共に暮らせるまちづくり	1 障がいのある人の自立した生活への支援	
5 入院から在宅まで安心して 医療を受けることができる まちづくり	1 つながり医療の推進 2 菊川市立総合病院の機能の充実 3 家庭医の育成と定着の推進 4 関係機関などと連携した地域医療の充実	
6 市民一人ひとりが 自ら学び、地域とともに 文化を継承し、発展させる まちづくり	1 文化活動の振興 2 歴史・文化遺産の保護と継承 3 文化を引き継ぐ人材の育成・環境づくり 4 読書を身近なものとするための読書活動の推進	
7 生活のなかにスポーツの 楽しさと活力がある まちづくり	1 誰もがスポーツに触れ合う機会の創出 2 スポーツ活動の場と環境の充実 3 スポーツ団体・スポーツ活動への支援	

魅力目標4 快適 Comfort		環境 社会資本整備 行財政
政策	施策	
1 交通安全・防犯の意識が高いまちづくり	1 交通事故に遭わない、起こさせないための交通安全対策への取組 2 安全性向上に向けた交通安全施設の整備 3 犯罪をさせない、抑止力の高い地域社会づくりへの取組	
2 みどり豊かな自然や住みよい環境を未来へつなぐまちづくり	1 カーボンニュートラル（脱炭素）・ネイチャーポジティブ（自然再興）の推進 2 サーキュラーエコノミー（循環経済）の推進 3 水質浄化・生活環境の改善への取組	
3 魅力ある居住環境で暮らせるまちづくり	1 駅周辺の居心地の良いまちづくりの推進 2 人や暮らしを支えるまちづくりの推進 3 親しみやすい公園の整備 4 地域を支える交通ネットワークの維持への取組 5 橋梁や道路施設の適正な維持管理による快適な道路環境の保持 6 空き家や市営住宅の既存住宅ストックの有効活用	
4 安全かつ安心な上水道を安定して届けるまちづくり	1 安定した水資源の確保と安全・安心な水質管理体制の構築 2 安定して供給できる管路の整備 3 水道施設の計画的かつ適正な管理及び整備 4 安定財源の確保、広域連携による健全な事業経営の継続	
5 個々人の違いが尊重され、受け入れられるまちづくり	1 多様性を認め合い、個性や能力が十分に発揮できるまちづくりへの取組 2 誰もが安心していきいきと暮らせる多文化共生社会の推進 3 人権擁護活動の推進	
6 効果的・効率的な行財政運営のまちづくり	1 行政のプロフェッショナルとして機能する組織の構築 2 デジタル技術を活用した市民サービスの向上と効率的な行政運営の推進 3 健全で安定した財政運営の構築 4 広域連携による地域の活力と幸せの実現の推進	

魅力目標5 躍動 Activation		経済 雇用 農業 観光 コミュニティ
政策	施策	
1 消費者が安心して暮らせるまちづくり	1 多様化する消費者被害の拡大防止への取組 2 消費生活センターの機能強化による相談体制の充実への取組	
2 地域産業の成長による持続可能なまちづくり	1 年齢やライフスタイルに応じたきめ細やかな就労支援への取組 2 挑戦する事業者への支援 3 地域を支える市内企業の成長支援と新規企業の獲得への取組	
3 「農業DX」による農業振興と次世代農業モデルを推進するまちづくり	1 菊川型農業モデルの確立への取組 2 経営感覚に優れた担い手の確保と育成 3 農業経営基盤の強化の促進 4 地域計画に基づく農地の集積・集約の促進 5 農業生産基盤の整備と維持管理	
4 活力と魅力のある茶のまちづくり	1 活力ある儲かる茶業の振興の推進 2 海外にむけた菊川茶の消費拡大 3 茶文化の継承	
5 人が訪れたくなる魅力あふれるまちづくり	1 市民と協した市の魅力の発信 2 マスコットキャラクターを活用した菊川市の認知度向上への取組 3 周辺地域と広域連携した交流人口の増加への取組	
6 市民と行政が共に創る未来のまちづくり	1 活気ある元気なまち、住みやすいまちのために活動する市民や若者、団体への支援 2 地域の発展を促進するための市政情報の共有 3 人、文化の交流や分野を超えたつながりをまちの魅力向上へ活用	
7 人が集まり、住み続けたいまちづくり	1 市の魅力の積極的な発信 2 移住・定住につながるアプローチづくりの推進	